

参考資料：岡山縣上道郡古都村史、『岡山市の地名』著者岡山地名研究者  
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）

## ふじい 藤井村（現、藤井）

宇喜多時代に藤井の西端から西南に新たに道をつくり岡山城下を通過する山陽道を建設した。このため従来の宿場であった「宿」に変わって「藤井」が宿場になった。

西国の諸大名は岡山以東最初の休憩所として藤井に休息するようになり急速に反映し本陣・旅籠屋、問屋が整備されるようになった。

村名の由来は不明で、慶長 10 年『備前国高物成帳』には古津庄藤井村と記されている。

※『備前国高物成帳（びぜんこくたかものなりちょう）』とは、慶長 10 年（1605）に備前国で作成された年貢帳のこと。

宇喜多秀家の山陽道付け替えにより宿村に替えて宿駅が置かれた。東本陣と西本陣があり、それぞれ本陣付きの田畑三丁四反余を与えられて本陣の維持を図った。しかし、宿駅の村は諸費用が多いため文政年間（1818～30）には随分難渋している。



明治 22 年(1889)6 月	宍甘・鉄・宿・南方の 4 ヶ所村と合併して古都村となり、藤井は大字名となった。
昭和 28 年(1953)2 月	町村合併で西大寺市に入った
昭和 44 年 2 月	西大寺市の岡山市編入合併に伴い西大寺藤井となった
昭和 47 年 7 月	藤井と改称した

藤井地区の西端から山すそを通り、宿地区を抜けて土田地区に至る道は、昔から「赤坂往来」と呼ばれ交通量の多い道であった。戦後は国道二号線の整備が進み、また山陽本線東岡山駅も近いことから工場の進出が多く、宅地化も進んでいる。